第３学年Ｃ組　国語科学習指導案

日　時　　令和５年 11 月４日（土）第１限
場　所　　第３学年Ｃ組教室（教室棟３階）
指導者　　楠本　涼子

１．主題名　　主張のよりどころを捉える
『async――同期しないこと』（坂本龍一）・『問いかける言葉』（国谷裕子）

２．目標
(1) 事例（主張のよりどころ）と主張とを関係づけて読むことができる。　〔知識及び技能〕
(2) 読書が自分の生活と関わりがあることを理解し，自身の生活と文章を関連づけて読むことができる。〔知識及び技能〕
(3) 文章を読み，社会や他者との関わりについて自分の考えを持ち，その考えを広げたり深めたりすることができる。　〔思考力，判断力，表現力等〕
(4) 自分の考えを，話し合いを通して広げたり深めたりできるよう，互いの発言を生かしたりしながら，建設的に話し合いを進めることができる。　〔思考力，判断力，表現力等〕
(5) 学習の内容に沿って考えたことを，話し合いを通してさらに広げたり深めたりしようとしている。〔学びに向かう力，人間性等〕

３．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。（(2)ア） ・自分の生き方や社会とのかかわり方を支える読書の意義と効用について理解している。（(3)オ）	・「読むこと」において，文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて，自分の意見を持っている。（Ｃ(1)エ） ・「話すこと・聞くこと」において，進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い，合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。（Ａ(1)オ）	・粘り強く論理の展開の仕方を捉え，学習過程に沿って考えたことについて討論しようとしている。

４．STEP との関わり
(1) 国語科としてのとらえ
【内容面】
今回の単元は，２つの説明的な文章を読んでいく。筆者である坂本龍一氏の東日本大震災をきっかけ

とした音楽家としての考え方，また，国谷裕子氏の海外での生活から感じたこと，キャスターの経験から感じたことをもとに，それぞれの社会観が示されている。

STEP との関りで言えば，直接的に【気候変動】【人・文化（防災）】【平和】と関わっているとは言い難い。しかし，社会に対して問題提起していく，社会の中での自分のあり方を考えていくということを考えていくと，SDGs のすべての項目について関わりがあるといってよい。

【行動面】

国語科では，主に【根拠】【じっくり・いろいろ】に重点を置き授業を行っている。今回の単元においても，上記の資質・能力については育成していきたいと考える。今回は「社会観」について筆者の考えが述べられる説明的な文章を読んでいく。自分が生きる社会に目を向け，考えたことを問題提起という形で発信していくことで【問題発見】【伝達・発信】の資質・能力の育成にもつなげていく。

STEP においては，どのような問いを立てるかが重要になってくる。また研究においては，グループでの話し合いを通して自分の考えを深めたり再構築したりしていくことも重要である。その点において，STEP での【問題発見】や【協働】の資質・能力が国語科でも発揮され，さらに高めていけるような授業としたい。

(2) 育成したい資質・能力について

本単元は「主張のよりどころを捉える」ことを目標としているため，とくに【根拠】の資質・能力を，また筆者である坂本龍一氏，国谷裕子氏がこの文章で，自身の経験を通して「社会観」を語っていることから，生徒たち自身が社会や自身のあり方について「じっくり」と考えたり，筆者の根拠や主張に対して批判的に読んだりすることで【じっくり・いろいろ】の資質・能力を育成していきたいと考えている。

さらに，坂本氏や国谷氏の主張が，社会に向けての問題提起の役割を担っていることを考えると，自ら問題に気づき，その問題について自身の経験を交えて考えを主張していくことを通して，【問題発見】についての資質・能力を育成したい。また，これまでの文章の書き方，構成の仕方を用いて文章を書いていく中で，【アイディア】や【伝達・発信】の力の育成も行っていきたい。

５．単元について

本単元は，「主張のよりどころを捉える」ことを目標としている。説明的な文章では筆者の主張に迫ることが多いが，いったい何を根拠に述べられているのか，その根拠，つまり「よりどころ」を捉えることで，筆者の考えや主張を的確に捉えられるようになる。今回扱う『async――同期しないこと』（坂本龍一）・『問いかける言葉』（国谷裕子）は，どちらも自らの経験をもとに現代社会に課題を投げかける文章である。これまでの経験が自分の考え方に影響を及ぼすこと，また，経験によって自身の考えが形作られていくことを考えることができる。

『async――同期しないこと』は，筆者の音楽のアルバムが生まれた過程が垣間見える。それまでの常識を打ち破った音楽はどのようにして生まれたのか。そのきっかけから，新しい音楽が生み出されるまでが，論理的に説明される。具体的な足跡が書かれており，一般的に考えられる音楽と，その枠に収まらない筆者の音楽観が明確に伝わる。そのうえで，音楽を「人間社会」に照らし合わせる。読み手は、筆者の真意にはたと気づく，そんな文章である。

『問いかける言葉』は，序論で主張の一端が述べられる。世界中の著名人と関わり，キャスターとして

一線で活躍している筆者の主張は，実は過去の経験に基づく確かなものである。本論では過去の経験だけでなく，一般的に知られている法則や例を用いて説明される。結論に至り，筆者の主張の裏づけとともに，より強固なものにされるのである。

2 つの説明的な文章は視点こそ異なれど，現代の日本社会に共通する課題を投げかける。読み手が自分の考えを持ち，広げたり深めたりするきっかけとなる学習にしたい。

６．指導について

本単元は「主張のよりどころを捉える」ことを目標としている。そして，筆者の主張である社会観に触れることで,普段自身が考えていることを，どのように表現していくか考えるきっかけとし，ここでの学習を通して，自身が文章を書く際に，何をよりどころとして書いているのか振り返る機会としたい。また国語科では，いかに「生活とつなげる」か，についても考えてきた。特に今回の文章は，筆者の考え方と自分の考え方とを比較しながら考えることができる。そして，筆者のこれまでの経験を知ることで，自身のこれまでの経験についても考えるきっかけができる。そうすることで，今回の文章や筆者の考え方が，自身の生活とのつながりも感じられるものと思われる。自身の生活と結びつけながら学習していく時間としたい。

この 2 つの説明的な文章は，視点こそ違うが現代の日本社会に共通する課題を投げかけるものとなっている。「同期しないこと」つまり「同調しないこと」とはどういうことなのか，「自分はどうあるべきなのか」「問いかけることの重要性」について，「不寛容」を 1 つのキーワードとして，読み進めていくこともできる。これらのことを，グループでの話し合いや，文章として表現する学習を通して身に付けさせていく。また，国語科で大切にしている資質・能力，【根拠】【じっくり・いろいろ】を軸としながら，今回の単元では【問題発見】【アイディア】【協働】【伝達・発信】の資質・能力も育成できるものと考えている。

第 1 時では，今回の単元の目標である「主張のよりどころを捉える」について確認していく。そして，第 2 時，第 3 時で文章の特徴や，主張の仕方，主張のよりどころについて，確認しながら読み進めていく。ここでは，2 つの文章を比較する。特に「主張のよりどころ」がどのように示されているのか，2 つの文章にともに登場する「不寛容」という言葉に注目して読んでいく。このとき，筆者が何を大事にし，社会に対してどのような考えを持っているのかを自分の考えと比較しながら読んでいきたい。

第 4 時では，筆者それぞれの考えに対して「共感できるところ」「共感できないところ」について考えていく。これらを考えることで，筆者の言う「同期しない音楽を聴くこと」や「問いかけること」との考えを比較することにつながり，より文章を読み深めることにつながると考える。

第 5 時（本時）では，前時に考えた内容をグループで紹介しあい，「なぜ共感できるのか」「なぜ共感できないのか」について突き詰めていく。これを行うことで，自分自身が何を「よりどころ」に共感できる，できないを決めているのか明確にしていく。ここでは，グループでの話し合いを通して，【協働】【伝達・発信】【じっくり・いろいろ】の資質・能力を育んでいきたい。

第 6 時では，第 5 時での話し合いの内容，明確にしてきたことを踏まえて，自分の考えを再構築していく時間とする。そして，「共感できること」「共感できないこと」についての「よりどころ」がどこにあるのかを明確に示しながら，自分の考えを他者へと【伝達・発信】していく時間とする。

第 7 時ではここまでの学習を踏まえて，文章を書いていく。ここでは自分の考え，主張に対して「より

どころ」がどこにあるのかを意識して書いていくこととし，今回の文章を自分の生活とつなげ，振り返る機会としたい。

7．指導と評価の計画（全 7 時間）　　○「評定に用いる評価」　●「学習改善につなげる評価」

時間	□ねらい　■学習活動	評価の観点			評価方法	育成したい資質・能力
		知	思	態		
第 1 時	□単元の目標を把握したうえで，本文を通読し，本文の要旨を捉える。 ■「学びナビ」で単元の学習内容を確認する。本文を通読する。	●			●ロイロノート	【根】
第 2 時	□本文の主張と主張のよりどころを捉える。①→2 つの説明的な文章の比較 ■2 つの説明的な文章を比較することで，主張と主張のよりどころ，文章の書かれ方にどのような違いがあるか考える。	●			●ロイロノート	【根】 【じ】
第 3 時	□本文の主張と主張のよりどころを捉える。②→「不寛容」について考える ■2 つの説明的な文章に登場する、「不寛容」との言葉に注目し，社会と自分とのつながりについて考える。	●			●ロイロノート	【根】 【じ】
第 4 時	□「共感」をテーマに，2 つの作品について自身の考えを分析することができる。 ■共感できるところ、共感できないところを挙げ、その理由を分析する。		●		●ロイロノート	【じ】 【根】
第 5 時 本時	□話し合いを通して，自身の考えを深めることができる。 ■共感できるところ、できないところの分析を班で共有し、さらに考えを深めていく。		●	●	●ロイロノート ●行動観察	【協】 【伝】 【じ】
第 6 時	□自身の考えを再構築することで，自分の考えをより詳しく正確に伝えることができる。 ■班で話し合ったことをもとに再考する。発表する。（互いに評価し合う）		○	○	○評価シート	【じ】 【ア】
第 7 時	□社会に対しての自分の考えを，文章で表現することができる。 ■これまでの学習で考えたこと、これまでの経験から思うことを自分の言葉で表現する。（新聞の読者の欄への投稿）	○	○		○作文	【発】 【ア】 【伝】

※育成したい資質・能力の表記は省略した名称で記述している。

根拠　⇒　【根】，じっくり・いろいろ　⇒　【じ】，　アイディア　⇒　【ア】
問題発見　⇒　【発】，　問題解決　⇒　【解】，　振り返り　⇒　【振】
協働　⇒　【協】，　伝達・発信　⇒　【伝】

８．本時の指導

(1) 目標

① 文章を読んで考えを広げたり深めたりして，「共感できるところ」「共感できないところ」について，自分の意見を持ち，話し合うことができる。　〔思考力，判断力，表現力等〕

② 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら，何が「よりどころ」になっているのかについて話し合い，考えを広げたり深めたりすることができる。　〔思考力，判断力，表現力等〕

③ 粘り強く論理の展開の仕方を捉え，学習過程に沿って考えたことについて討論しようとしている。　〔学びに向かう力，人間性等〕

(2) 指導計画（50 分）

学習活動	○指導上の留意点　◆評価	育成したい資質・能力
1. 前時で考えた「共感できるところ」「共感できないところ」を発表する。(5 分)	○前時に考えたことを，全体で共有する。 ここでは，全員でなく若干名指名し，全体共有させる。このとき，共有された内容に対して，「自身はどう考えるか」を考えさせたい。	
【課題】　話し合うことで自分の考えがどこから来ているのか，何が「よりどころ」になっているのかを明確にしよう。		
2. 班で共有，分析する（25 分） (a) 1 人 5 分×4 人を目安とする。 (b) 話し手に質問をする。 (c) メモを取って次に生かす。	○1 人 5 分を目安に話し合わせる。 分析においては，「共感できる」「共感できない」理由について考察していくものとする。 ○何が「よりどころ」になっているのかを考えられるように，聞き手は話し手に質問するよう促す。 ◆文章を読んで考えたことを自分の意見として持ち，グループでの発表を通して，内容の検討ができる。(思)	【協】 【伝】 【じ】
3. 自分の考えについて，何が「よりどころ」になっているのかを明確にする。(10 分)	○配付したワークシート（プリントもしくはロイロノート）に，グループで話したこと，考え（主張）のよりどころについてまとめさせる。	【じ】

4. 話し合いについて発表する（5 分） 5. 本時の振り返りを行う。振り返りシートに本時の振り返りを記入する。（5 分）	○どのような話し合いが行われたのか，話し合いによって自分の考えに変化はあったのかなどについて発表する。 ◆話し合ったことをもとに，伝え合う内容を検討し，さらに自分の考えも整理できている。（思・態） ○次時の全班発表後に，最終的な振り返りをおこなう。本時の現段階までで学んだことや得られたことなどを書くように促す。	【伝】

＜参考文献＞

(1) 文部科学省(2017),『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編』.

(2) 国立教育政策研究所教育課程センター(2020),『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語』.

(3) 犬飼龍馬(2022),『中学校・高等学校国語科「読解方略」習得ワーク＆指導アイディア』.

(4)「読み」の研究会関西サークル(2021),『中学校国語科「言葉による見方・考え方」を鍛える 小説・説明文・論説文の「読み」の授業と教材研究』.